

アーカイブ Data Report

NO. 67

(2021年1月15日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(*岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

GIGA スクール構想とデジタルアーカイブ (5) ～通信ネットワークを用いた協働学習と資料の活用～

新田 直 (元大藪小学校)、熊崎 康文、加治工 尚子、齋藤 陽子、
松井 徹 (岐阜女子大学)、又吉 斎、新垣 さき (沖縄女子短期大学)

GIGA スクール構想では、情報端末を用いて多様なソース(資料)を利用し、対話・協働し学ぶ体験から、自己の知識・技能の更新を意識させることが求められている。このような学校間で対話・協働する学びが、すでに1998年には、松下視聴覚教育財団の支援で次の4校で実践されている。(コーディネータは、後藤忠彦、生田孝至、総合(4校の)協働学習の司会は新田直が行った。)

協働の学びに参加した学校は、北海道(札幌市)白楊小学校、新潟県(佐渡)八幡小学校、岐阜県(輪之内町)大藪小学校、宮崎県(西米良村)村所小学校の4校がISDN回線によるテレビ会議システム、インターネット、FAXや印刷物、CD-ROM等を使い協働学習を実施した。

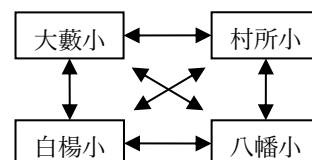
(遠隔共同学習(テレミーティング)「各地のくらしと私たちの国土」(1999年3月)岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター、342ページより)

1. 各2校で打合せ、共同授業等の実施(1998年9月)

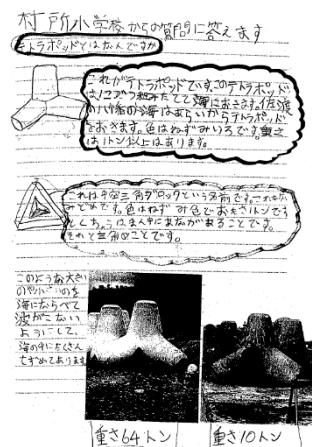
その方法は、各校がそれぞれのカリキュラムを構成し、互いに提供・打合せをし、2校間で共同学習を進めた。その中で各地の生活について互いに質問し、質問に対し各小学校の担当児童が調べて報告をした。

この質問は、ときには「〇〇さん」と指名することもあった。(各校には顔写真と自分の紹介した1枚の用紙が送られていて教室に掲示してあった。インターネットでは、互いにプライバシーが外に出ないように工夫されていた。)

例えば、日常の授業等では発言が少ない児童A君に他校から「A君、テトラポッドについて教えて下さい。」と質問され、おじいさんと一緒に海に行き、実物の前に自分が立ち、おじいさんが撮影した写真や説明したプリントをFAXで送っていた。そこには、大きさや役割、色々な形、持ち上げる方法な



(必要に応じ各2校間で共同学習や資料の流通)



どが書かれていた。担任の先生がこの子がこのような回答を作って送ったと感動されていた。

児童は、多くの質問に写真、絵、文字で説明し、いかに相手に伝えるか工夫が見られた。

これは、情報端末を用いて安易に映像を送りそれで終わりではなく、いかに相手に伝えるか工夫するよう指導がすべきである。

学習活動・共同学習前の情報交流

<p>学習活動</p> <p>(1) 地域調べ……調査活動</p> <p>(2) 印刷（紙）メディア作り（交流）……（表現活動） （調査・編集）</p> <p>(3) ビデオ作品例（発表）……（映像・音声、表現活動） （調査・編集）</p> <p>(4) インターネット・FAXを用いた交流 （学校間交流・データベース等利用）</p> <p>(5) テレビ会議システムを用いた交流 （発表・交流）</p>	<p>共同授業前の情報交流</p> <p>(1) 資料等印刷物、CD-ROM</p> <p>(2) 児童の作品（調査報告、紹介等）</p> <p>(3) インターネット、FAX</p> <p>(4) テレビ会議システム （2校間、全体等の交流）</p> <hr/> <p>共同授業</p> <p>(5) VTR（調査報告）……印刷物も利用</p> <p>(6) テレビ会議システム 発表、討論</p>
---	--

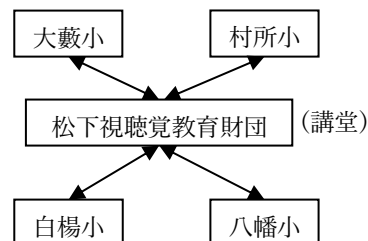
教師の打合せと地域での学校・地域社会の連携

<p>教師</p> <p>(1) 授業計画（共同学習日） 各学校のカリキュラムで実施</p> <p>(2) 各種資料の交換・提供</p> <p>(3) インターネット等で指導計画の打合せ</p> <p>(4) テレビ会議システムで授業研究</p>	<p>「学校・地域社会の連携」</p> <p>(1) 遠隔地での授業公開 出身者の公開参加</p> <p>(2) 学校から地域の人々への働きかけ</p> <p>(3) 地域の人々が遠隔地の出身者に働きかけ</p>
--	---

このような情報の交流が行われたテレビ会議システムによる各2校間で共同授業が進められた。

2. 4校の共同授業（1998年12月）

4校のまとめの授業は、松下視聴覚教育財団と各校を結びテレビ会議システムを使い共同授業がされた（新田司会）。また、テレミーティング・シンポジウムも授業後に開催された。（松下電器グループの全国22ヶ所と他の教育機関を衛星通信で中継し、1300名が参加した。）



最も注目されたのは、各学校の地域の出身者が地域の人達からの連絡（情報提供）で本会場を始め各会場で授業を見られたことである。

今後の課題

このことは、GIGA スクール構想の教育実践、カリキュラムマネジメント、さらにデジタルアーカイブの教育利用の発展にぜひ役立てたいものである。また、沖縄では、すでに多くの地域文化資料が保管されている。これを少しでも児童の実物調査に用いて、タブレットを使いそれに絵や文章を記入し、情報を伝える表現力の育成がGIGAスクール構想で問われる。